

小千谷税務署長賞

生活を支える税金

新潟県立小千谷高等学校

二年 喜多村 葵

普段よく目にする税金という言葉ですが、すぐに思い浮かぶ税金とよばれるものは片手で数えられる程度です。成人年齢が十八歳に引き下げられた今、私たちの生活に欠かせない税金について高校生である私たちが知識を深めていくことはより重要になったと感じます。

私が一番身近に感じている税金は消費税ですが、よく考えてみるとその用途を知りません。税率が上がるとどのような影響があつて用途はどのようなものか調べてみることにしました。

二〇一九年十月、消費税率が10%になりました。当時のテレビニュースで10%になる前に、とスーパーのカゴに商品を詰めこむ人々の様子や、税率の引き上げに嘆く人々の様子が報道されており、とても印象的でした。

税率が上がった背景に何があるのでしょうか。それは昨今の日本が抱える急速な少子高齢化問題が背景にあるようです。

少子高齢化が社会に及ぼした影響の一つとして社会保障費が増え続けるといわれています。それにより、税金や借金に頼らざるを得ない状況なのです。社会保障制度を次世代に引き継ぎ、全世代型に転換する必要があるため、安定的な財源を確保しなければならぬのです。こうした背景が税率の引き上げに大きく関わっています。それ

では、引き上げ分はどのように使用されるのでしょうか。用途は大きく分けて二つあります。一つ目は社会保障制度。もう一つはあらゆる政策の実現です。二つ目を詳しく見てみると、高等教育の無償化、介護職員の処遇改善などがあります。他界した私の祖母は生前認知症を患っていて、初めは軽症だったもののしだいに悪化していき一人で食事や衣服の着脱など全て出来なくなりました。私自身が介護を経験してみても想像していたものよりはるかに大変だと分かりました。私を手伝っていたのは一部だけで主に母が介護していたので、母の精神的・身体的負担は大きかったと思います。そんな日々が続くと家族内で不満やストレスが増え、祖母のデイサービス利用や、施設利用の話が出るようになりました。私はサービスを利用するのに手間がかからず、すんなりと使用できると勘違いしていたのですが、現実はそのうちありませんでした。驚いたのは空気が無いことです。利用を待っている人達もいるということも知り、介護現場の厳しい状況が分かりました。祖母は数カ月後に利用できましたが、他にも待っている人がいると考えるとこの状況は問題だと思えます。そのため、介護職員の処遇改善という政策があり、改善することで介護の受け皿を整備することができるといふのに消費税が使用されているのが意義深いと感じました。人手の少ない現場にとって有意義な政策であり、普段買い物などで何気に支払うお金の一部がその政策に繋がりをもつことを知り、税金の必要性を強く実感しました。税金一つ取ってもこのように様々な役割があります。サービスを本当に必要としている人にサービスが行き届き、享受できるようにするために、税金が存在しています。

私自身が、これから様々な税金を納める立場になったとき、こうした意義や役割を考えながら、貢献していきたいと考えています。